三鷹市山本有三記念館

Yuzo Yamamoto Memorial Museum Repor

着想を得た「ウミヒコ・ヤマヒコ」「スサノオノミコト_ 志の人びと」「嘉門と七郎右衛門 しています。 など、山本有三は歴史を題材にした作品を数多く執筆 薩摩藩を舞台にした戯曲三部作「西郷と大久保」「同 や、「古事記」から

有三が、西郷隆盛と大久保利通について書いてみた

時代にまでさかの

いと思ったのは学生

ぼります。

しかし

歴史上の大人物で

ある。(中略)史実を史実のままに生かしつつ、そのあ の正道だと信じている」と、その創作態度を述べてい を加えずともそのまま戯曲になり得ると信じたからで り細かにわかっており、 ずることにした。前作とちがって、これは事跡がかな いだにおいて劇的に盛り上げてゆくことが、私は史劇 しかもその事実に多くの変更

三鷹市山本有三記念館企画展 有三が描いた歴史 ます。

ますます遅れてい

きました。二人に

味を引かれてしま

べること自体に興

い筆を執ることが

調

べ始めると、調

跡や周囲の事情を あるが故、その事

サノオノミコト れている「ウミヒ 読みこなしつつ、 事記」や「日本書 現代的です。「古 情の動きはとても マや登場人物の感 描かれているテー 事記」を下敷きに は、設定こそ「古 コ・ヤマヒコ」や「ス 大胆なアレンジを しているものの また昔話で知ら などの文献を

歴史に舞台を借りて描いた人物像に迫ります。 や小説へと昇華させていった創作の跡を辿りながら、 な調査によって史実の中に劇的なものを見出し、 ならではの作品に仕上げていったことがうかがえます。 有三の史劇と歴史小説を取り上げた本展では、 加えながら、有三 綿密

翌年は大久保の没後50年に当たります。

大久保」の場あいにおいては、できるだけ史実を重ん

同作の執筆をふり返った随筆で、有三は「「西郷と

らのことでした。奇しくもこの年は西郷の没後50年、

1927 (昭和2年) になってか

衛門」です。結局、三幕物の戯曲として「西郷と大久保」

が発表されたのは、

と「嘉門と七郎右

「同志の人びと」

基に執筆されたの

に遭遇した材料を ついて調べている間

展示室から

戯曲集 『西郷と大久保』 改造社 山本有三 (昭和2) 著

3

2015 年9月

年

第

として出版されました。 よひ」「雪」を収めた本書は、 表題作の他、 「嘉門と七郎右衛門」 有三の9冊目の戯曲集 「父親」 「大磯が

864-1943] によるものです。 菅は夏目漱石 [18 67-1916] の生涯の友人としても知られ、 有三にとって菅は一高時代の恩師であり、東京帝大独 谷霊園に眠る漱石の墓碑銘は彼の手になります。また 文科の先輩に当たります。 堂々とした題字は、ドイツ語学者・書家の菅虎雄 雑司ケ

がりを伝えてくれます。 この一冊の美しい本は、 有三と縁のある人々とのつな 渡辺美知代(学芸員)



『西郷と大久保』山本有三著 改造社 四六判、260頁、箱入 定価1円50銭

特別寄稿

歴史物における期間の取り方について

和田 竜

ちょっと引用する。
り』のコピーをいただいた。その冒頭が興味深いので、三が大正十年に書いたエッセイ『芸術は「あらわれ」なこのエッセイの執筆を依頼された際、資料として有

いうものは、そんなにきまったものであろうか。」評家のあいだで議論される。しかし、いったい、題材とは、これは小説の題材だが戯曲の題材ではないとか「これはよい題材だとか、悪い題材だとか、あるい「これはよい題材だとか、悪い題材だとか、あるい

画脚本も書いているからだ。

画脚本も書いているからだ。僕も小説と同時に映まが小説も戯曲も書いていたので、なおさら驚き、同時言が小説も戯曲も書いていたので、なおさら驚き、同時に勝手ながら親近感を覚えた。僕は不勉強で、有ら言われていたことに結構驚いた。僕は不勉強で、有ら言われているからだ。

僕の小説は「ネオ時代小説」――この呼称を僕は何

ていることと無縁ではないだろう。の題材や戯曲向きの題材が存在すると世間が誤解しもあるのだが、このことは、有三が指摘した、小説向きもあるのだが、このことは、有三が指摘した、小説向きだかダサいので嫌いだが――と呼ばれており、その

でが、有三の言う通り、小説向きの題材、戯曲向きの題材、はたまた映画向きの題材があるわけではない、ある史実を小説や映画にした場合、仮にそれに魅が下手だということに過ぎない。手前味噌で恐縮だが、題材――歴史物で言えば史実――が表現手法をが、題材――歴史物で言えば史実――が表現手法をが、題材――歴史物で言えば中実――が表現手法をの題材、はたまた映画向きの題材があるわけではないの。

だりして心地よく、さらには現在の著者に書きたいとここで考えを進めて「現在の観客・読者が観たり読ん有三の言っていることは本質である。しかしながら、

思わせる題材は何か」となると少々話は違ってくる。

材の選び方である。「のぼうの城」を例にする。この小説と映画脚本はどだのぼうの城」を例にする。この小説と映画脚本の方を先になめてきた攻防戦を脚本家になりたかった僕は、戦国時書いた。もともと脚本家になりたかった僕は、戦国時書いた。もともと脚本家になりたかった僕は、戦国時本の選び方である。

窓城の城主は成田氏である。石田三成との攻防戦 忍城の城主は成田氏である。石田三成との攻防戦 が、僕は題材を石田三成との攻防戦だけに絞った。理が、僕は題材を石田三成との攻防戦だけに絞った。だいかにも乱世の大名らしい長い歴史を持っていた。だいかにも当然出来事はあって、その三十年ほど前には りにあったからだ。

現在の映画は、大抵の場合、アクション物の論理で現在の映画は、大抵の場合、アクション物の論理でいたは長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くものはなく、全部が全部、一日かには長い期間を描くまど臨場感や緊迫感が増すからだ。そを描けば描くほど臨場感や緊迫感が増すからだ。そを描けば描くほど臨場感や緊迫感が関ウを引きが振り限られただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃下ろされただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃下ろされただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃下ろされただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃下ろされただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃下ろされただの、人が惨殺されただの、殺人鬼から逃しない。

が好みである。 客はそれに慣れ、僕自身もそういったスタイルの映画 書かれる。とくにアクションがない場合でもそうで、観 |在の映画は、一部を除けばこのようなスタイルで

象を拭えない。 うな作品になってしまう。大河ドラマでさえ、その印 物語を構成せざるを得ず、結果、ダイジェスト版のよ 生の期間が描かれ、二時間という限られた上映時間 と歴史上の人物を描いた場合、数十年という長い人 でないものもある。また、ここでは「銭形平次」のよう ポットが当てられ、その人物が生まれてから死ぬまで 映画や小説が、文芸作品の雰囲気で描かれていると感 の中では、いくつかの出来事をピックアップすることで な時代物は除いた歴史物の話をしている)。そうなる の長い期間が描かれるといったものだ(もちろん、そう じていた。すなわち、歴史上の人物ひとりの人生にス 僕は「のぼうの城」の脚本を書く以前から、歴史物の

年後・・」といったような、観客や読者に改めてストー 除くとたったの二ヶ月間である。この取り扱う期間の リーを把握させなければならないような事態にはな き、シーンごとの密接度も高めることができる。逆に 短さによって、シーンごとの情報量を増やすことがで 点を絞った。「のぼうの城」が描かれる期間は、冒頭を らないのである。 言えば、長い期間を扱ったもののように「あれから何 そんなわけで僕は、石田三成との攻防戦だけに焦

た」とか「ところがこういうことが起こった」など、ス シーンごとの密接度が高まると、「だからこうなっ

> ができた。 に至り、とくに時間を飛ばすことなく物語を描くこと は激突し、アクション映画そのもののバトルや水攻め る三成軍とそれを知った忍城軍が交互に描かれ、両者 りまで運ぶことができる。「のぼうの城」では、迫り来 トーリーの波に観客や読者を乗せ続け、難なく終わ

僕は創作の妙があるような気がしている。 題材は媒体を選ばないが、その描く期間の扱い方に、 それを支持してくれた。有三の言う通り、史実という のスタイルに従い題材を選び、幸運にも観客や読者が 題材は何か」と書いた。「のぼうの城」の場合、僕の好み いかのような評が出て来るのではないかと思っている。 有三が指摘するような、題材として小説に向いていな 析している。ただ、このスタイルは従来の歴史小説に慣 史小説だとの認識が生まれたのではないか、と僕は分 物とは異なるスピード感や臨場感が生まれ、新しい歴 度は高く、時間も飛ぶことがなく、結果、従来の歴史 ルで書かれているので、自然、小説もシーンごとの密接 たのが、小説「のぼうの城」だ。アクション映画のスタイ 心地よく、さらには現在の著者に書きたいと思わせる れた人には違和感が生じ、それゆえ漫画的といった こういう志向のもと書かれたシナリオをベースにし 先に僕は「現在の観客・読者が観たり読んだりして

だけだ。 どちらも大差ない。ただ、アウトプットの違いがある それによって物語が紡がれるという意味においては、 うと、両者とも八割がた同じだ。人間が判断し、動き、 同じ題材を脚本と小説にした者から言わせてもら

> と言えばそのぐらいである。 ついでに映画ではできにくい史実の説明もする。違い がないはずがなく、小説ではそれを全開にして書く。 といって書き手に登場人物の動きや気持ちのイメージ することで気持ちを表していく。しかし、そうだから の表現はしない。気持ちはカメラでは撮れないから ができることだけを書くのが鉄則だ。それゆえ気持ち だ。また脚本は目に見える、つまりカメラに撮ること きはほとんど書かない。演出にかかわる事柄だから だ。あるのはセリフとト書きだけで、その二つを駆使 例えば脚本は映画監督への遠慮から登場人物の動

竜 わだ りょう

12年に映画化され、累計20万部を超えるベストセラーとなっ ジナル脚本「忍ぶの城」で第29回城戸賞を受賞。これを小説化 組制作会社を経て繊維業界紙の記者となる。2003年にオリ 賞、第11回本屋大賞、 た。2014年『村上海賊の娘』で第35回吉川英治文学新人 した『のぼうの城』で2007年に作家デビュー。同作は20 1969年、 『小太郎の左腕』『戦国時代の余談のよだん。』がある。 大阪府出身。早稲田大学政治経済学部卒業後、 第8回親鸞賞を受賞。他に『忍びの国』



ガイドボランティアリポート 13 記念館で活動中のガイドボランティアより交代でリポートをお届けします

2つの文学館のボランティアをして

有三記念館の解説ボランティアをして約3年が経 過した。それ以前から文学施設のボランティアを約 7年行っており、そこでは作家の生涯と作品・心理 と行動を学んだ。有三はそれらに加えて建物とその 付属物、内・外装のデザイン等も学ぶ要があった。

当初この物理的なものを学習・吸収するのに不 慣れ感・違和感があったが、ガイドとしての経験 が増すにつれ、それらの感じが薄れてきた。物理 的なものと暮らしとの関係が当初よりは判ってき たからであろうと感じている。 (宇賀 勇夫)

有三の多面性

ガイドをしたいと思ったきっかけは、玉川上水 に寄り添うように建つ洋館に惹きつけられたこと にあります。ガイドをしていく中で、大きな気づ きがありました。それは、有三の作家ではない政 治家、教育者の一面でした。現憲法に関わったこ と、国語教育に力を入れ、当用漢字表を制定した こと等です。このことについては来館者の多くの 方がご存じないようです。これを是非お伝えし、 より有三を理解し親しみを持っていただけたら、 嬉しいことです。 (満田 照世)

▶▶事業報告

2月 山本有三記念館・三鷹ネットワーク大学共催講演会 近衛文麿と山本有三

日本近現代史を専門とする古川隆久さん(日本大学教授)を講師にお迎えし、「山 本有三没後 40 年 絶筆「濁流」」展(会期: 2014 年 11 月 8 日~ 2015 年 3 月 22 日) の関連講演会を開催しました。「濁流」は、近衛文麿と一高時代からの友人であっ た有三による近衛伝です。2人の出会いから「濁流」執筆に至った背景、また有三 が近衛をどう理解していたか、詳しくお話いただきました。古川さんは丁度、近衛 に関する著作を準備中ということで、最新の研究成果が盛り込まれたお話には「文 学と歴史両分野に有意義な内容だった」「近衛の捉え方が少し変わった」などの感 想が寄せられました。



講師:古川降久

春の朗読コンサート

野田香苗さんの朗読と、毎年異なる楽器とのアンサンブルをお届けす る朗読コンサートは当館人気イベントの 1 つ。今回のゲストは笙の 中村華子さんでした。和楽器との相性から、朗読作品は「古事記」に 着想を得た戯曲「ウミヒコ・ヤマヒコ」と、それにまつわるエピソー ドが綴られた随筆が選ばれました。笙の音は時に虫の声に、時にパイ プオルガンの響きとなって有三文学を彩りました。久しぶりの和楽器 の登場に「とても新鮮に楽しめた」「作品の雰囲気と音楽がぴったり だった」などの声をいただきました。

第3回山本有三記念館 スケッチコンテスト

ご応募お待ち しています!

あなたの絵で、記念館を飾ってみませんか?

コンテスト来場者と審査員の投票により選ばれる入賞作品は、山本有三記念館にて展示いた します。公園は入場無料ですので、ぜひお気軽にスケッチにお越しください。

募集期間:2015年11月1日(日)~12月6日(日)

コンテスト: 2016年1月16日(土)~1月24日(日) 会場▶三鷹市公会堂さんさん館

入賞作品展示:2016年2月9日(火)~3月6日(日) 会場▶山本有三記念館

*作品規定やその他詳細につきましては、記念館までお問い合わせいただくかホームページをご覧ください。



三鷹市山本有三記念館

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 2-12-27 TEL 0422-42-6233 FAX 0422-41-9827 ホームページ http://mitaka.jpn.org/yuzo/ 開館時間:午前9時30分~午後5時

休館 日:月曜日及び年末年始(12月29日~1月4日)

*月曜日が祝日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館。

入館料:300円(20名以上の団体200円)

*中学生以下、障害者手帳持参の方とその介助者、校外学習の高校生以下と引率教諭は無料。

アクセス: JR中央線「三鷹駅」南口より徒歩12分

JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」南口(公園口)より徒歩20分